※※

今日の力

※※

2018 年 1 月 1 日〜1 月 7 日

翻訳　伊 藤 若 菜

編集　相 川 忠 義

この冊子の聖句は，新改訳聖書第三版を使用しています。

御 茶 の 水 キ リ ス ト の 教 会

1月1日(月)

霊 的 な 意 味 で 盲 目 で し た

聖書朗読　エレミヤ　５：２０〜２５

むしろ，心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして，あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には，だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。　Ｉペテロ　３：１５

長い間，私は地元のアート同好会が開催するイベントに参加してきました。その際の会話の内容には気を配り，論争になりそうな話題は避けるようにしていました。その様な場で出会う人達とイエス様について語るのは，適切ではないと思っていました。他の人の気分を害することがないよう気を配り，態度にも気をつけていました。

ずっと後になって，アート同好会の委員会の一人がクリスチャンだったことを知りました。私は，自分自身が不快な思いをしないよう心配ばかりしていたことに気付き，ハッとしました。そのような心配よりも，もっと大切なことがあったことに気付いたのです。

それまで私は，何と無駄な時間を過ごしていたのでしょうか！　もし私がクリスチャンであることをオープンにしていたのなら，それは誰かの支えになったかもしれません。これまで，自分にとって一番楽な方法でのみ人々と接してきたことを後悔しました。英語圏でよく耳にする「いちばんの盲人は見る気のない人」と言う格言を思い出しました。

今後はあらゆる機会をイエス様を宣べ伝える機会に用いようと心に決めました。イエス様が私にとってとても大切なお方で，私を強めて下さるお方だということを，もっと積極的に他者と分かち合いたいと強く思いました。それ以前の私は，霊的な意味で盲目だったのかもしれません。

讃美歌　502

祈　り　慈しみ深い天のお父様。あなたは私の心の欠けを補って下さると約束して下さいました。これまで，霊的な意味で盲目になっていた私をお赦し下さい。これからは心を開き，イエス様を宣べ伝える人となれるよう，お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ノーマ・プリビット

カリフォルニア州　サウザンドオークス

1月2日(火)

神様から離れてしまっていませんか

聖書朗読　ホセア　１１：１～８

それなのに，彼らを呼べば呼ぶほど，彼らはいよいよ遠ざかり，バアルたちにいけにえをささげ，刻んだ像に香をたいた。　ホセア　１１：２

真ん中の息子は小さい頃，どこでも走り回る子でした。とある夕方，私がキッチンで料理している最中ちょっと目を離したすきに，息子はどこかへ行ってしまいました。それに気付いた私は，大声で名前を呼び，息子を捜しました。走って玄関の方まで行って見ると，息子が道路まで出て行ってしまったことに気が付きました。車に轢かれてしまうのではないかと怖くなり，とても大きな声で叫びました。親としてここまで肝を冷やした経験はありません。息子は私の声に気が付き，止まりました。あと数メートルの所まで車が迫っていました。

旧約聖書の時代，イスラエル人たちはいつも神様から遠ざかろうとしていました。神様の御許から離れ，偶像崇拝を行いました。私が必死に息子の名前を呼んで捜したように，神様もイスラエル人たちを呼び求めました。このような出来事は，一度ではなく何度も起こりました。イスラエル人たちは，神様と共に居れば安全であるのに，神様の御許を離れ，勝手に危険な所へと行ってしまったのです。

私はこれを自分の経験と重ね合わせて考えることが出来ます。私は自分の思いに基づいて物事を進めたいと考えがちです。しかし私の思いは神の御心とは違うかもしれません。そしてその都度神様は，私を呼び戻して下さいます。何と慈しみ深く，愛と赦しに満ちた神様なのでしょうか。神様があなたに掛けておられる御声が聞こえますか？　『すべて，疲れた人，重荷を負っている人は，わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます』(マタイ 11:28)。神様の声に耳を傾けましょう。

讃美歌　517

祈　り　親愛なる神様。あなたは私達の理解を超える恵み深い愛を与えて下さっています。私を赦して下さって，感謝しています。私もあなたと同じように寛容な心を持つことができますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジョッシュ・バーネット
テネシー州　ナッシュビル

1月3日（水）

大いなる恐るべき日

聖書朗読　ヨエル　２：２８～３２

万物の終わりが近づきました。ですから，祈りのために，心を整え身を慎みなさい。　Ｉペテロ　４：７

熱，風，煙，そして火――これらがベッドで寝ていた私の目を覚ましました。山火事です（訳注：著者は山火事が頻繁に起こるカリフォルニア州南部在住)。サンタアナ方面から温かい風がカリフォルニアの砂漠に一晩中吹き続けていましたが，夜明け前になると，私は煙の臭いで目を覚ましたのです。

まず，子どもたちを起こしました。そして写真，ノート型パソコン，大事な書類といくつかの必需品をバックに詰め込みました。その後，一番近くの避難所へと車を走らせました。山火事の煙が朝日を覆い，太陽があたかも傷ついたオレンジのように見えました。そこで私は，ヨエル書のこの聖句を思い出したのです。『主の大いなる恐るべき日が来る前に，太陽はやみとなり，月は血に変わる』(2:31)。

この日ほど，準備をしておくことの大切さが身に染みた日はありません。私達は山火事が起こる可能性を想定し，物理的にも精神的にも準備をしていました。消防士たちも準備をしてあったので，山火事に対処することが出来ました。地域のリーダー達も避難所を準備し，避難の方法を計画していました。皆，それぞれ準備していたので，山火事が発生しても，私達は深刻な被害を出来るだけ避けることが出来ました。その日は，不便な一日とはなりましたが，安全に過ごすことが出来ました。

ヨエルは，主を求める者はシオンの山（つまり天の御国）へと導かれると言いました。イエス様は，私達のための場所を天に準備して下さっています。「大いなる恐るべき日」が来ても私達には，イエス様が準備して下さった御国という避難所があるのです。避難所へいつでも行けるようにこの地上で準備しておきましょう。それが私達の役目です。

讃美歌　488

祈　り　親愛なる神様。人生の嵐に遭っても，私達にはあなたが準備して下さっている避難所がありますから感謝いたします。何があろうと揺らがない信仰を持てるよう，お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ティム・ウィリス
カリフォルニア州　マリブ

1月4日（木）

己 を 省 み る

聖書朗読　　ヨナ　１：１～３及び４：９～１１

私たちは，自己推薦をしているような人たちの中のだれかと自分を同列に置いたり，比較したりしようなどとは思いません。しかし，彼らが自分たちの間で自分を量ったり，比較したりしているのは，知恵のないことなのです。

IIコリント　１０：１２

子どもの頃『ハイライツ』という子ども向けの雑誌が大好きでした。特に，隠し絵（絵の中の一部に，よく見ないとわからないように動物や物などが描かれている絵）のコーナーは私のお気に入りでした。隠し絵をよく見ると，その中に目立たないように描かれた動物や物などを発見することが出来るのと同様に，ヨナ書に書かれている出来事をよく考えてみると，この出来事の中に私達自身を見ることが出来ます。ヨナはイスラエルの領土が広がることを預言しています（II列王記14:25）が，こうした自分たちにとって好ましい事柄に関しては，ヨナは神のメッセージを人々にきちんと伝えたようです。しかし，自分たちにとって好ましくない事柄に関しては，ヨナは神に従わず，きちんと人々に伝えなかったようです。

イスラエルの人々は，ヨナを愛国心が深い者として称賛していたよう見えます。しかし，気をつけましょう。人からの称賛は，私達に誘惑をもたらす場合があるからです。つまり，自分が他人より優れていると感じる高ぶった思いが生じ，さらに，自分は真の主権者である神様の命令にも従わなくてもよいとさえ考えてしまう場合があるのです。ヨナはまさにこの誘惑に惑わされ，神様から逃げてしまったのです。人々に都合の悪い預言（神のメッセージ）は，伝えたくなかったのです。しかし，私達は神に対して謙虚であることが肝要です。つまり，神のご計画がたとえ私達の目には好ましく見えなかったとしても，また私達の感覚ではタイミングが悪いように思えても，神に対していつも誠実であることが大切です。このような，神に対する謙虚な姿勢を，ヨナは失ってしまったのです。

ヨナ書の最後は，ヨナが不機嫌になったところで終っていますが，これは彼の人生の終わりではありません。もしかしたら後になって，ヨナは自分自身の経験について反省し，神様に従わなかった過ちを告白したかもしれません。そのようにして，ヨナは真に変えられていったのかもしれません。私達も，ヨナとその出来事に重ね合わせて，自分自身を考えることが出来るのではないでしょうか。

讃　美　　ともにうたおう24

祈　り　　親愛なる神様，試練の時にも，あなたに信頼し，耐え忍ぶ力を与えて下さい。また，あなたに従うなら，そこに望みがあることを思い起こさせて下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リネット・カルナハン・グレイ
テネシー州　ロックフォード

1月5日（金）

御 言 葉 を 宣 べ 伝 え る

聖書朗読　　ミカ　２：６～１３

見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは，きびしさです。あなたの上にあるのは，神のいつくしみです。ただし，あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって，そうでなければ，あなたも切り落とされるのです。

ローマ　１１：２２

信仰深いクリスチャンは誰でも預言者である，と言っても過言ではないと思います。なぜなら，クリスチャンは皆，神様より遣わされている使者としての役割があるからです。つまり，私達はいつでも愛をもって真実を語ることが神様から期待されているのです。また，神を受け入れない人々が私達を拒絶しても，私達は心を騒がせてはなりません。

預言者ミカも，現在と共通点の多い文化の中で生きていました。貪欲さが社会に蔓延していました。悪が溢れていました。偽の預言者が，輝く未来を勝手に約束していました。

ミカは，イスラエルとユダが犯し続けている罪のめに，神様が大いなる裁きを彼らにもたらそうとしていることを警告しました。神様は征服者たちをお用いになり，サマリア（聖書時代の北王国イスラエルの首都）は瓦礫の山になり，人々は哀れな姿で捕虜となるだろうと預言しました。それに対し偽預言者は，ミカに『たわごとを言うな』と言いました（2:6）。

しかし，ミカは預言者としての役割に忠実でした。彼はアッシリア人とバビロニア人たちによる征服と捕囚を預言するとともに，神様がイスラエルの「残りの者」（神に忠実であった人々）を故郷に戻すことも預言しました。そして神様は『私のことばは，正しく歩む者に益とならないだろうか』（2:7）とミカを通して言われたのです。

今日も，世にはびこる悪の力は強いのですが，それは全能であられる神様の御力には及びません。そして神様の側に立っている人々も世界には大勢います。しかし，だからと言って今日私達には何も役割が無いということではありません。私達もミカのように，愛をもって御言葉を宣べ伝えることが期待されているのです。

讃美歌　　502

祈　り　　父様なる神様。私達が常に信仰を持ち，愛をもって御言葉を宣べ伝えられるようお助け下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リチャード・アディ
オレゴン州グレシャム

1月6日（土）

いつもイエス様と共に

聖書朗読　マタイ　４：１８～２１
それゆえ，あなたがたは行って，あらゆる国の人々を弟子としなさい。
マタイ　２８：１９

子どもの頃，私は夏になると毎日祖父の農場を手伝っていました。そして，滅多にないことでしたが，「釣りへ行こう」と祖父が誘ってくれた時はとても嬉しかったことを覚えています。祖父と私は日の出から日没まで一生懸命働き，ごく稀でしたが，休みのひと時を設けて数時間釣りを楽しむことがあったのです。祖父との釣りの時間は，息抜きになっただけでなく，様々な知恵を学ぶ機会にもなりました。

イエス様の最初の弟子であるペテロたちがイエス様に声を掛けられ，一緒に来るよう言われた時，彼らはどう思ったのだろう，と私は思い巡らす時があります。イエスさまの招きに対し，彼らは躊躇しませんでした。この時以降弟子たちが辿る歩みは，冒険とも言えるような波乱万丈の歩みでした。つまり，苦痛や恐れを経験したり，恐ろしい仕方での死の危険にさらされたりといった大変な人生です。しかし弟子たちは，「人間をとる漁師」として大きく用いられたのでした。弟子たちは，イエス様と過ごしている間に様々な知恵をイエス様から学び，成長して，用いられていったのです。

今日でもイエス様は，私達を霊的な意味での「釣りの機会」すなわちイエス様と共に歩み，イエス様から学ぶ機会に招いて下さっていると思います。この世界には，様々な意味で傷付き，癒しを必要としている人が沢山居ます。そんな人たちが真に癒されるためには，イエス様とその愛が必要です。さあ，私達もイエス様と共に歩み，悩める人の多いこの世界に，神の恩寵・赦し・癒しという網を降ろしましょう。そして私達が降ろすその網は，私達自身で作ったものではなく，神様から頂いているものです。イエス様は，私達にも「釣りへ行こう」と声を掛けておられます。ペテロたちが自分たちの網をまず捨てて，主と共に歩み出したように，私達も自分自身の網（自己中心の思い）をまず捨てて，イエス様と共に「人間をとる漁師」として歩みましょう。

聖　歌　578
祈　り　イエス様，私達が地上の光となれるようお助け下さい。私達の目と心を，癒しを必要としている人に向けられますように。あなたの愛を必要としている人々に，心を向けられるよう知恵をお与え下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アール・ラベンダー
テネシー州　ブレンドウッド

1月7日（日）

黄　金　律

聖書朗読　マタイ　５：３～１２
それで，何事でも，自分にしてもらいたいことは，ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。
マタイ　７：１２

かつてアメリカの殆どの小学生たちは，次のような言葉が刻印されている定規を持っていました。「自分が他人にしてもらいたいように他の人にしなさい」という言葉が刻印されている定規です。これはコカ・コーラ社が作成し，1920年代から1960年代まで学校で配布されていました。今日では，アンティーク・ショップやインターネット上の販売サイトでしか見かけなくなりました。

定規に刻印されてあった言葉は，一般的には黄金律と呼ばれています。表現がやや違っても，同じような趣旨の言葉は，様々な文化や著作を通して言われ続けてきました。ただ，普通は「～してはならない」という否定の表現が使われています。つまり，「自分がされて嫌なことは，他人にもしてはならない」といった表現です。

しかしイエス様は，「～しなさい」と言われ，積極的な姿勢を私達に求めておられます。『何事でも，自分にしてもらいたいことは，ほかの人にもそのようにしなさい』（マタイ７：12）。

イエス様は続けて，『これが律法であり預言者です』とも仰いました。究極的には，私達にとって，長々としたルールや規則の一覧表は必要ないのです。自分にしてもらいたいようにほかの人にもする，という原則のもと行動する限り，私達が大きな間違えを犯す（つまり，律法を破ってしまう）心配は殆んど無いとも言えるのです。

讃美歌　352
祈　り　父なる神様。イエス様の黄金律に従えるようお助け下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

フィリップ・アイヒマン
サウスカロライナ州　アイアモ